



熊本県



OGUNI TOWN

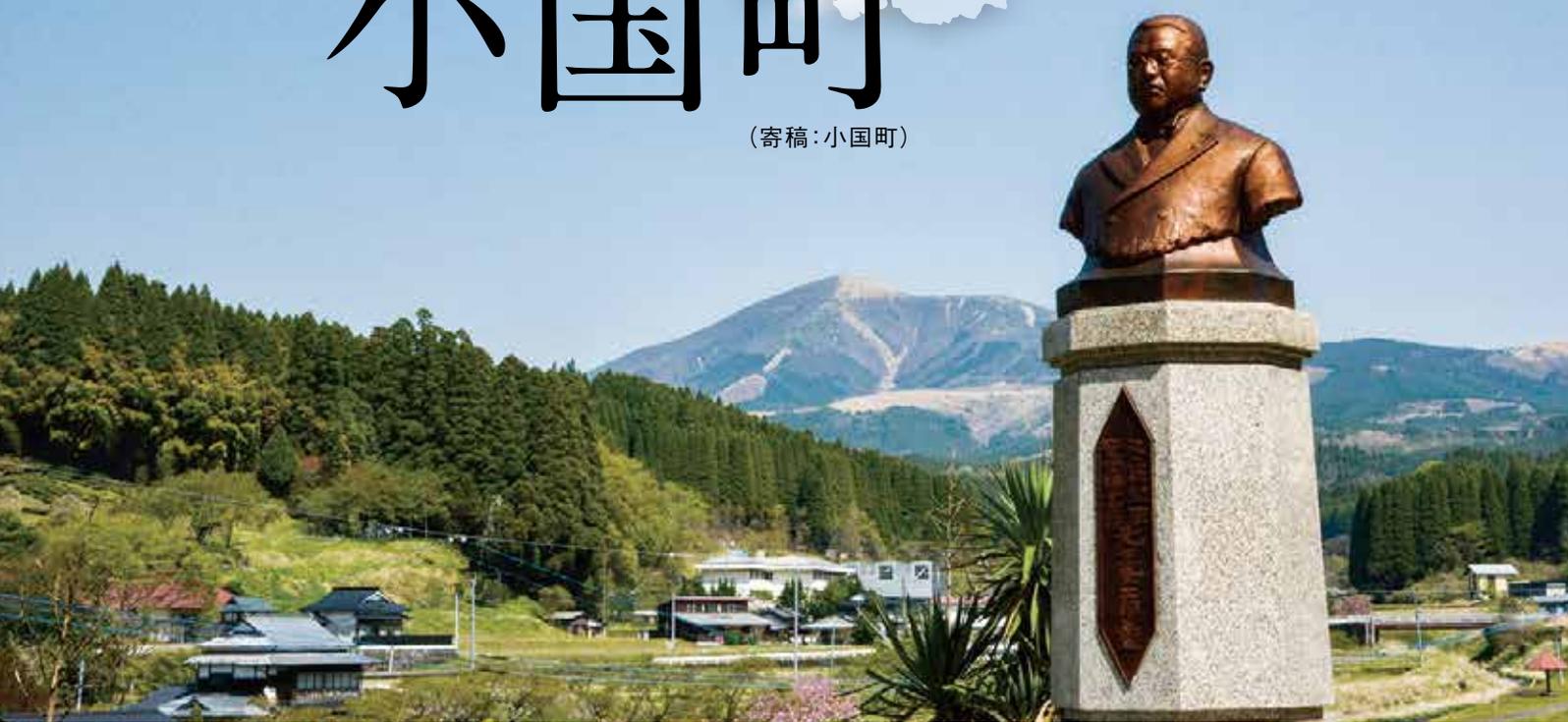
小国町

(寄稿:小国町)



小国町

熊本県



北里柴三郎記念館の博士像と涌蓋山

小国町の概要

小国町は熊本県の最北端に位置する緑豊かな町です。その豊かな自然は人をも育み、日本が世界に誇る細菌学者で、2024年発行予定の新紙幣の肖像に採用された北里柴三郎博士や、グレー画家の坂本善三画伯といった先人を輩出しています。

小国町は古くからその特異な気候風土により、良質な「小国杉」の産地として栄えてきました。小国杉は、寒暖の差が大きい気候により、年輪の木目が細やかになり家屋の材料用として丈夫であるということが最



道の駅「小国」ゆうステーション

大の特徴です。小国林業の歴史は1750年代に、肥後藩令により各戸25本の挿し木を行ったことにはじまり、現在では町の面積の78%を山林が占めています。

町内では多くの特徴ある木造建築物を見ることができます。中でも特産品の販売や、地域の情報を紹介する道の駅「小国」ゆうステーション、スポーツなどのイベントに使用される「小国ドーム」、森林組合の事務所を兼ね、林業と木材の全てが分かる施設「林業総合センター」の3施設は木造立体トラス構造(*)により建設されており、全国から注目を集めています。

(*)トラス構造とは、構成される三角形を単位とした構造骨組の一種で、各部材の端部節点がすべて「J」接合(自由に回転する支点)となっているものをいいます。変形しにくい構造でドームなどの大空間や橋の架構に用いられています。



小国ドーム



林業総合センター

湯治の街と 自然を楽しむ

山あいの温泉郷

小国町には、特徴ある温泉が二つあります。一つ目は、杖立温泉です。無色透明の単純温泉で肌触りがやさしく、保湿効果が高いのが特徴です。この温泉は1800年もの歴史があるといわれており、古くから湯治場として親しまれてきました。



杖立温泉



杖立温泉 背戸屋

熊本県と大分県の県境に位置する杖立温泉街は、昭和初期から中期頃、「九州・福岡の奥座敷」と呼ばれ、大変多くの人が訪れる地でありました。杖立では狭い路地のことを背戸屋せとやと呼び、現在でもたくさん残るこの背戸屋を歩いて回ること、時代を遡り旅する不思議な感覚を味わえます。

二つ目のわいた温泉郷には湧き上がる六つの温泉があります。その中の一つ、はげの湯温泉は、小国富士と呼ばれるわいた山の西麓に位置する

温泉です。標高760mの高原にわく温泉で、各旅館からの眺望は素晴らしく、阿蘇の大自然を堪能することができます。その他にも、わいた山の麓にある岳の湯温泉は、至る所から蒸気が噴出しています。この天然の蒸気は、暖房や料理など普段の生活にも活用されています。さらにわいた温泉郷には、山川温泉や、地獄谷温泉、麻生釣温泉、鈴ヶ谷温泉などがあります。

自然の宝庫

多くの自然や清らかな水に囲まれる小国郷には、48もの滝があると言われています。中でも鍋ヶ滝は高さ10m、幅20mと横に幅広い水のカーテンのような滝です。滝の裏側に道ができており、裏側から滝を鑑賞することもできます。滝の裏側からは、水のカーテン越しに山あいの幻想的な景色を楽しめます。2014年9月に「世界ジオパーク」に認定された「阿蘇ジオパーク」の中でも、大地の息吹を感じることができる、重要な場所のひとつとされています。



わいた温泉郷



鍋ヶ滝



北里文庫内展示室



◀新千円札の肖像に
北里柴三郎博士を採用

歴史と文化にふれる

「日本の細菌学の父」

北里柴三郎博士

2024年発行予定の、新千円札の肖像に採用された北里柴三郎博士は小国町出身です。

北里柴三郎博士は、1853年小国の北里村（現小国町北里）の庄屋北里惟信の長男として生まれまし
た。東京医学校（現東京大学医学

部）に進み、日本代表の留学生として結核菌の発見者であるドイツのローベルト・コッホに師事しました。ここで貴重な研究実績を次々と発表しました。とりわけ破傷風菌の純粹培養法の確立と血清療法法の発見は前人未到のもので、世界の医学会にその名をとどろかせました。帰国後、福沢諭吉などの援助により伝染病研究所を設立し、1914年には自力で北里研究所を設立しました。以来、1931年に死去するまでわが国の公衆衛生・医学教育・医療行政の発展に貢献しました。

北里柴三郎記念館は北里柴三郎博士が1916年に私財を投じ、故郷の青少年のために贈った「北里



北里柴三郎記念館（貴賓館）

文庫」と、同時に建てられた「貴賓館」がもとになっています。1965年に河川改修のため博士生家が同じ敷地内に移設されました。その後、北里研究所、北里学園が中心となり、多くの方々の協力を得て博士の生家の復元修復を行うとともに、博士に関する顕微鏡や手紙などの遺品を陳列し、小国町に寄贈したものです。北里柴三郎博士は小国町の名誉町民として、多くの人に尊敬されています。

「東洋の寡黙」坂本善三画伯

坂本善三画伯は「グレーの画家」「東洋の寡黙」と評され、熊本を代表する抽象画家として知られています。

故郷の風土や自然に根ざした作品は、「自分とは何か」を追求した坂本独自の抽象であると世界でも高い評価を受けました。

1995年に歴史ある銚納宮神社の隣に建てられた小国町の美術館で、坂本善三画伯の作品を見ることがができます。また、この美術館は、国内でも数少ない畳敷きの美術館です。



1970年当時の坂本善三画伯



坂本善三美術館

小国町観光マップ



今後の 観光施策について

新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、これまで経験したことのないような危機が観光業界全体を襲っています。

宿泊予約については4月以降は8割以上の施設が70%以上減少となり、今後も極めて厳しい状況が続く見込みです。コロナ禍で人々が自由に動けない時期に、小国町は地域資源の磨き上げによる観光資源化で、収束後の持続可能な観光地づくりに向けた取り組みを進めています。

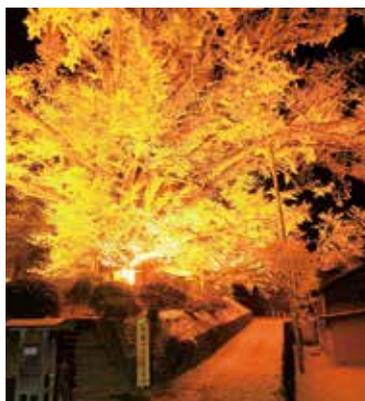
具体的には、鍋ヶ滝公園周辺の交通渋滞緩和対策として、コロナ禍でも安心して観光できる環境を整備することを目的に、予約システムを導入し、11月4日から実証実験をスタートし、2022年4月の本格稼働に向けて取り組んでいます。さらに新たな観光資源の開発として、鍋ヶ滝、下城の大イチョウ横にある下城滝、鍋釜滝にライトアップ設備を整備。今後は町の新たな観光

資源として活用していきます。

このような取り組みに加え、2024年上半年発行予定の新紙幣千円札に北里柴三郎博士の肖像画が採用されました。それにより、小国町の注目度が高くなることが予想され、博士の理念である「学習と交流」としての「教育旅行」など観光客の誘客を目指す滞在交流型観光地として新しいイメージを高めていきます。



下城滝



ライトアップされた下城の大イチョウ